

令和2年度 中央区立久松幼稚園 外部評価報告書	
評価委員：前田委員、関口委員、植田委員、五味委員、福田委員 酒井委員、川名委員、川口委員、村上委員、及川委員	
評価時期 令和3年2月2日（火）	
1 重点目標・その他の評価・意見 <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の中で、保護者の方の意見、評価が良いものがとても多く、喜ばしい。・資料を見て、先生方が子どもや保護者への対応を丁寧に行っていることが分かり、とても感謝している。・行事はコロナの影響を受け大変だったかと思うが高評価であった。内容を工夫した結果だったと感じる。・「心が豊かな子」の項目の数値が低い。思いやりなど心の発達については、小さいうちからすぐに育つものではないので、子どもの発達段階を踏まえた思いやりの気持ちの育成について、保護者へ発信していくことが今後の課題であろう。・コロナ禍の中、これからも命を守ることを優先に、工夫しながら焦らず保育を進めていけるようにしてほしい。・子どもたちは、この現状（コロナ禍）をよく分かっていて、どこかで我慢をしていたり、嫌な気持ちを大人や周りに言えなかったりすることがあるかもしれない。今後も子どもたちの心のケアをこれからも丁寧なことを願う。	
2 今後の改善に向けた意見 <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍は続いていくことが予想されるため、効率のよい有効な感染防止対策と保育の質の両立を期待する。・豊かな心を育むために、3、4、5歳児の発達に応じた保育内容を提示し、幼児の心の育ちについてどのように捉えるか、家庭と幼稚園とでどう育んでいくかを保護者と共に考えられる工夫をするとよい。・重点目標3のオリンピック、パラリンピック教育について、3つの柱を元に日常の保育の中で、様々な経験がなされていることを繰り返し保護者への発信し、より理解を深めてもらえるよう工夫する必要がある。・コロナ禍の中でも、小学校との交流がさらに充実するように工夫し、来年度計画的に幼小連携を進めていけるよう期待する。・降園時、教師の話が聞こえづらいという意見があり、改善を期待する。・家庭内での挨拶が足りないのではないかと感じる。家庭への協力を求め、連携しながら挨拶の習慣化を目指すとうい。	